

結納03

結納は形式や贈る品物・贈り方に、結婚式以上に地方ならではの特色が色濃く残っています。日本の伝統的な儀式である結納を皆さんはどこまでご存知ですか？

◆結納品の起源とそのスタイル

嫁がまとまると、吉日を選んで結納の儀式を行います。その前に結納を決める仮約束をします。この仮約束は前祝いの的な盃事で全国的に“決め酒”や“たもと酒”と呼ばれています。(地方別呼称右記参照)いずれの場合も祝酒と肴(するめ、生魚、料理など)を持参して喜びを分かち合い、二人のしあわせと両家の繁栄を願います。

決め酒をすると「あの家に酒が入った」と言われ、結納が近いことを意味します。また、関西地方では決め酒の習慣はなく“見合扇子”や“扇子交換”と呼ばれる扇子交換をします。

■「関東式VS関西式」

結納品のスタイルは、一般的に関東式と関西式の二つに分けることができます。「関東式」は、すべての結納品を一つの台に載せるため、結納品のひとつひとつが縦長で装飾の水引きも平面的です。これは昔、結納品を飾る台に裁ち台(着物を裁つ時に使う大きくて厚い木の板)を用いた名残りだと言われています。

「関西式」では、一つ一つの品を丁寧に扱うようにと「一台一品」。品物の形にもそれぞれ特徴があり、水引も立体的になっています。東海地区(愛知・岐阜・三重)では、関西式のスタイルが多く用いられています。

◆結納品に欠かせない「魁斗」

魁斗とは鮑(あわび)の肉を細長く伸ばしたもので、古来から長寿の薬として珍重されていました。古く、鎌倉時代からお祝いに備える習慣があります。また鮑はもちろんのこと、鳥や魚など動物性の食品のことを「なまぐさ(生臭)」と言い、弔事の際の「精進」に対して使われ、祝いごとを示します。慶事ごとには欠かせません。

◆お土産にもそれぞれ意味がある

相手宅を訪問する際には結納品以外にも親族の方にお土産を持参します。そのお土産ひとつひとつにも深い意味が込められています。

花嫁

迎え傘・迎え下駄

「挙式当日、雨が降ったらこの下駄を履き、傘をさして来て下さい。すべての用意を整えてあなたを待ってます。」という解釈が一般的です。

先祖

線香

先祖への挨拶を込めて。

父親

末広

婿の家、延いては一族の繁栄が港のごとく太平洋の様に広がる願いを込めて。

母親

真綿

真綿の伸びる性質から長生きできるよう、また、綿と布団地のように離れない様に。

兄妹

何か身に付けるもの

多いのは末広がりの意味から「傘」。

他には、財布・ベルト・ハンドバッグ・ネックレス・スカーフなど。嫁いだ姉妹や義姉、義妹にも忘れずに。

■関西・中部の嫌われ者が九州では人気者！？

お茶は「ちゃちゃを入れる」「茶を濁す」という意味から、関西・中部地方では嫌がられますが、九州地方では不老長寿の木であるお茶は「茶結納」として大切にされています。

■迫力ある「呉服細工」は東海地区ならではの

東海地区では、結納品の一つに「呉服細工」があります。これは呉服地にハサミを入れず、反物のまま宝船・鯛・樽などのおめでたい形を作ったものです。受け取った方は後にほどこいて着物や下着などに仕立てます。

結納Q&A

Q. 相手宅に仏壇がない場合は線香を持っていかなくていいの？

A. お仏壇がなくても、ご先祖様への挨拶は必要です。ご本家の仏壇もしくはお墓にお供えして、ご先祖様に嫁入りのお許しをご報告してください。